

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795500141		
法人名	医療法人ムサアザ会		
事業所名	グループホームいけむら		
所在地	宮古島市平良字西里340番地		
自己評価作成日	平成27年1月30日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○理念にもあるように、「みんなの笑顔は私の笑顔、私の笑顔はみんなの笑顔」とるように、みんなが笑顔で過ごすことができるよう努力しています。</p> <p>○個々のペースで過ごせるよう、寄り添いながらゆっくりとした対応を心掛けています。</p> <p>○地域の行事等への参加や、ドライブ買い物も頻繁に行い、心に潤いを持って生活が送れるよう支援しています。</p> <p>○個々で家庭的な雰囲気を持ち、掃除・洗濯等家事に積極的に参加していただき持っている力を活かして行けるよう支援しています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihontrue&Jizvsvocd=4795500141-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成27年3月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、平成25年に市街地に開設され、医療法人を母体とした複合施設の2階にあり、3階は有料老人ホームである。利用者は日常的に職員と一緒に商店や図書館等へ出かけ、地域に周知されている。保育園や高校等と交流があり、事業所の消防訓練に住民も参加するなど、地域との協力体制が構築されている。事業所の開設に当たっては、管理者が設計の段階から関わり、広い居室を確保してプライバシーに配慮した位置にシャワーやトイレを設置する等、居室は利用者が居心地良く過ごせる環境となっている。地域密着型サービスの意義や思いを理念に反映させ、ケアにおいては、利用者一人ひとりの思いの把握に努め、日中活動や外出支援等に繋げている。さらに事業所内研修の充実に努め、職員の資質やサービスの質の向上を図り、理念の実現に向けた事業所運営に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年4月23日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんなの笑顔は私の笑顔 私の笑顔はみんなの笑顔」を理念とし、日々笑顔で過ごせるようケアに努めています。	理念は、事業所開設時に管理者が「利用者が住み慣れた宮古島で笑顔で安心して暮らせるように」との思いを込めて作成した。理念を事業所内に掲示して周知すると共に、契約書やパンフレットにも記載している。職員は毎朝、理念を唱和して共有し、日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や、ホームでの行事などへ参加して頂いたり利用者から地域の方との交流が持てるよう支援しています。高校生や保育園児との交流も行っている。	利用者は、日常的に商店や図書館等に出かけて住民とふれ合い、住民から絵の寄贈もある。保育園の入園式での絵本の贈呈や幼稚園の音楽祭りの見学、高校のじゃが芋植付への参加もしている。保育園児の事業所行事への参加や体操ボランティアの受け入れ等の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護について研修を行っており、運営推進会議において、地域の住人に発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催しています。入居者や行政担当者やご家族は毎回参加しているが、地域住民や介護事業者の参加が、まばらなので、より協力体制の構築を考えていきたい。	運営推進会議は隔月に開催し、行政や利用者、家族や地域代表が参加している。会議で事業所の状況等を報告し、委員から「活動報告に写真添付や研修の記載を」との意見があり、対応している。議事録にヒヤリ・ハットや事故報告がなく、発言内容等が確認できない月もある。	会議でヒヤリ・ハットや事故等も報告して、事業所運営の透明性を図ると共に、委員からの意見をサービスの質の向上に活かすこと、及び会議録の整備が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で相談や助言を頂き、協力を得ています。また、徒歩で伺えるため、意見交換を行い協力関係を築くよう取り組んでいます。	行政担当者とは、毎月、実績報告や事務手続き等で窓口を訪問し、ケアプラン様式の紹介や相談への助言を受ける等、協力関係を築いている。行政からは、市グループホーム連絡会発足に向けた会議や認知症研修、県の集団指導の開催案内があり、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っている研修会において、身体拘束マニュアルを熟読し、活用して実践してケアにあたっています。また、転倒事故防止の為、センサー感知器で対応しています。	身体拘束をしないケアのマニュアルを整備し、拘束や虐待防止の研修会も実施して職員は理解を深めている。外出したい利用者には、その都度ドライブ等に対応し、リスクについては利用開始時に家族に説明している。エレベーターに模擬ボタンを設置し、利用者は自由に外出できない仕組みになっている。	

沖縄県（グループホーム いけむら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	認知症の理解をし、研修等の受講により知識を習得し、利用者に寄り添ったケアに努めるようにしています。また、職員の話をよく聞き心のケアにも努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を行い、制度について学ぶ機会を持ち、職員の知識の向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族様へホームでの生活において、誤解や不安感を抱かれないよう、契約時にはサービスの説明や利用料の説明などについて同意を求めるとしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族のホームへの訪問時、電話等により、近況報告を行い、意見や要望等を伺うようにしています。	利用者の意見は日頃の会話の中で聞き、「ケンタッキーチキンや刺身が食べたい」「外出したい」等に対応している。家族からは面会時や運営推進会議、電話等で聞いているが、運営に関する意見は殆どない。島外の家族から携帯ラインの活用を望む声があり、検討課題としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、意見や提案を聞き、反映させています。	職員の意見は、毎月のミーティングや毎日の申し送りで聞く他に、管理者が年1回の個別面談も実施している。職員から、「買い物をリスト化して一括購入する」等の業務改善や「金銭管理に不安を訴える利用者に、管理状況の説明文を居室に掲示する」等が提案され、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に関する給与体制などの考慮がされており、職員自身が働きやすい職場環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の職場研修を行い、外部研修にも積極的に参加ができるよう勤務等配慮をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡会を通して交流する機会を作っており、運営推進会議においても、他介護事業所との交流があります。今後グループホーム連絡会を立ち上げたいと思って話合っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の自宅等慣れた環境で話を伺い健康状態、生活歴、要望を聞き、本人が安心して生活できるよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時には面談をし、入居後もご家族の要望を聞き、どのようなケアがいいのか話し合いながら行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の相談内容や心身状態を把握した上で必要とする支援を考え、サービス提供等の情報提供を行っています。本人やご家族の自己決定により支援を実施しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔で接し、寄り添う気持ちを持ちながら、ゆっくりと生活が送れるよう、励まし支え合える生活を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などでご家族と本人の思いや今の状況を共有し、ご家族と一緒に協力して本人を支え合う支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等が気軽に訪ねてくれる雰囲気作りを心がけています。また、外出やドライブで住み慣れた地域に行き、交流ができるように支援しています。	利用者の地域社会での関係性は、アセスメントや家族の情報等から把握し、昔、働いていた市場や故郷の訪問を実施している。利用者は、家族と一緒に地域の祭りを見学し、馴染みの美容室にも出かけている。友人や知人の訪問を歓迎して、関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係把握し席の配置を工夫しながら、利用者同士で支えあえるよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても本人やご家族の関係性を大切に、遊びに来てもらったり、行事に招待したりして、相談や支援ができるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望は、生活をする中で、これまでの暮らし方や趣味、嗜好等の情報をもとに把握し、本人が自己決定できるよう努めています。	利用者の思いは日々の関わりの中で把握し、「家に帰りたい」等は外出支援に繋げている。衣料店を営んでいた方には、針と糸を用意して裁縫や手工芸の活動へと繋げている。把握が困難な場合は、表情や行動、発する言葉等を検討して、本人の思いを推察しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族等から、本人の生活歴や生活環境、思いなどを把握するよう情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の今までの生活リズムを大切に、現在の生活を記録して、食事、睡眠、排泄等を把握し、生活のリズムを職員間で確認できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族、主治医の意見を取り入れ、毎日の申し送りや職員ミーティング等により、課題やケアの在り方について話し合い、現在の本人に適した介護計画を作成しています。	担当者会議に利用者や家族、介護職員等が参加して、利用者のできる事や意向を確認し、介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施しており、計画は3ヵ月、又は半年毎に見直している。期間内に、定期的な評価や状況変化に伴う随時の見直しを確認できなかった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況や健康状態を個別に記録し、申し送りにて共有し、介護計画も定期的に確認し、変化があればモニタリングを行い、状況に適した計画の変更を行っています。		

沖縄県（グループホーム いけむら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族のニーズに対しては、安心安全に暮らしていただけるよう、ご家族職員等と話し合い調整し柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には参加するようしております。また、高校生と農園に出かけ植栽活動も行っています。自治会の方にも運営推進会議に参加していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的及び必要時に受診をしています。また、医師への連絡を密にし、医療面での相談ができています。	利用者は全員、協力医療機関を従来通りのかかりつけ医としている。協力病院と予約の取れている公立病院の受診は事業所が対応し、その他の外部医療機関への通院は家族対応である。受診時の情報交換は、口頭で行っている。週1回は看護師が健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師の訪問もあり体調不良時の相談や助言ができ、安心して支援ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も、まめに面会を行うようにしています。入院時は医療機関へ情報を提供し、面会時にその後の状況を聞き、退院後の受け入れがスムーズに行えるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者状態の変化に応じて説明し、終末ケアについて話し合い看取りについて確認しています。また、介護サービス計画更新時に家族に意向を再確認し、看取りについて伺います。	重度化や終末期の方針の明文化はしていないが、家族の希望があれば看取りも取り組む方針である。利用開始時や状態変化時に話し合い、「最後までお願いしたい」と希望している家族がいる。不安を訴える職員もいるが、研修を実施し、方針を共有して対応する体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月行っている内部研修にて、急変時や事故発生時の対応についてマニュアルの確認を行い、今後起こりうる事態について話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防火誘導訓練を実施し、防火災害マニュアルを作成し対応法の周知を図っています。また、周辺事業者へ協力を呼びかけ一緒に訓練を実施しています。	訓練は年2回消防署に届けて実施し、県の地震・津波避難訓練にも参加している。最初の訓練に消防署が立ち会い、毎回地域住民の参加もある。マニュアルに風水害や地震発生時、夜間想定もある。備蓄は、食糧等4～5日分を確保している。夜間想定訓練が未実施である。	夜間を想定した消防避難訓練の実施が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシーの研修を行い、入居者の尊厳を尊重し、対応や言葉使いなどを改善するように心懸けています。	毎月の事業所内研修で、管理者は利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや接し方等について、職員に話している。利用者は全員女性で、排泄や入浴は同性介助に努めている。居室入口の写真や名前は、希望しない場合は表示せず、居室の鍵を自分で管理する利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活する中で本人の希望や思いを聞き、話しかけ、表情に注意し、本当の気持ちを探るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の都合を押しつけがちになっている部分もあるが、本人が今日は何がしたい、今何がしたい等の希望を表出したときは、叶えられるよう支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が今日着たい衣服を選んで頂き、楽しくおしゃれができるように支援しています。また起床時ブラシを渡し、自分で身だしなみを整えてもらえるよう支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや下膳食器洗いなど手伝いの可能な方には、したい事、出来る範囲で無理強いの事無く、楽しく食事が摂れるよう支援しています。	食事は3食事業所で作り、差し入れの漬け物や油味噌等の提供もある。法人で一括購入する食材以外は利用者と一緒に買い物に出かけて調達している。利用者は野菜の下準備や味見、ご飯とお汁よそい、食器洗い等に参加している。職員は食事介助後、自宅で食事している。	地域密着型事業所としての意義を踏まえ、家庭的な環境の中で職員も利用者と一緒に同じ食事を摂る事の重要性について検討し、実施することが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎食記録して、摂取量が少ない場合医師に報告し、適切な対応を行っています。水分量も個々の嗜好を考え楽しく確保できるよう支援しています。		

沖縄県（グループホーム いけむら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に朝夕食後の口腔ケアは職員が声掛けし、見守りや介助を行い、うがいをおこなっています。義歯は毎日チェックして、義歯洗浄剤を使用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や状況を確認し、プライバシーに配慮し、失敗ないようにトイレ誘導や声掛けを利用者に合わせた時間に行っています。また、日中と夜間で対応を変え、ケアをしています。	排泄は同性介助で、職員2人対応の全介助が2名、センサーやコールでの見守りが2名いる。全介助者も定時の声かけや仕草等で判断してトイレでの排泄を支援している。ベッドをトイレの近くに移動し、自力でトイレに行く努力を重ねている利用者もいる。夜間はオムツ利用が1人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表や状況を確認し、個々の排便周期を考慮し、自然排便ができるよう、牛乳や食事の工夫や運動等を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に3回とある程度の設定はあるが、気持ち良く入っていただくよう、必ず本人の意向を確認して入浴を行っています。また入浴拒否のある方も本人のタイミングや声掛け促しを行い入浴できるようにしている。	居室にシャワーがあり、湯は定温に設定している。入浴は同性介助で、週3回午前を基本とし、職員2人対応の方以外は見守り介助である。入浴を嫌がる場合は、トイレ利用のタイミングでの声かけや好きな民謡を流す等で入浴に繋げている。現在、大浴槽の希望者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の良い睡眠できるよう、日中は離床し体操や趣味活動を行っています。また、本人の希望や状態により自由に昼寝も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や効果を、全職員が理解できるよう個人ファイルに綴り、いつでも確認ができるようにしています。また、本人の状態の変化にも気を配っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の気分に応じ、野菜切り、新聞折り、手作業や外出やドライブなど希望を取り入れながら気分転換を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩やドライブ買い物に出かけています。また、初もうでや新聞等に掲載されている地域のイベントには参加するようにしています。誕生日などにみんなで外食を楽しんでいます。	利用者は日常的に市場等で買物し、図書館や物産展、幼稚園の祭りに出かけている。誕生日の外食は、事前に店と相談して実施している。故郷を訪問したい、フェリー乗り場に行きたい、妹に会いたい等の個別の要望にも対応し、ハリー等の地域行事には家族と参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が少額の現金を持つことで、落ち着かれることもあるので、ご家族と調整しながら所持しています。また、買い物時会計をお願いすることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が希望する時には、家族等に電話を話をしていただいています。また、年賀状などはご家族の訪問時に代読をいただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きな窓があり、その日の天気かわかり、明るい日の光が差し込み、温かく心地よい空間にし、季節を感じるができます。季節に合った装飾をしています。	事業所内は加湿器や温湿度計を設置し、廊下は広く、採光や風通しも良い。ベランダに季節の野菜を植え、台所からは調理の音が聞こえ、匂いも漂ってくる。図書館から借りたCDの唱歌の音量も心地よく、利用者は新聞を読んだり、チラシで物作りをしたり、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファがあり気分にあわせ過ごせるよう工夫し、仲の良い方々を同じテーブルにするなど楽しい時間を過ごせるよう配慮しています。一人で過ごしたい場合は、廊下の椅子や部屋へ戻られています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるよう、自宅で使用していたものなどを配置していただいています。本人やご家族と相談しながら、写真を飾ったりしています。	居室は広く、プライバシーに配慮した位置にトイレとシャワーを設置し、利用者の希望で畳を敷いた部屋もある。室内はベッドとサイドテーブル、筆筒を準備し、窓は二重カーテンである。利用者の家族がテレビや時計、テーブル等を持ち込み、工夫した個性的な部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所全体がバリアフリーになっており、手すりが設置されています。本人の部屋やトイレが分かるよう大きく名前や写真を掲示したりしてわかりやすくしています。		